

ひろしまの遺跡

第114号

さまざまな形の鉄鏃!!

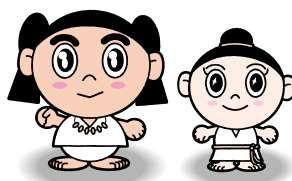
ー長畑山古墳（三次市吉舎町）の鉄製品の保存処理が終了しましたー



上が長頸鏃 下が平根鏃



棘状のまち



ひろちゃん

やよいちゃん

X線撮影の結果、関(まち)の部分が棘(とげ)状に張り出している鉄鏃が大半を占めることが分かりました。これは古墳時代後期の鉄鏃によく見られる特徴です。

長畑山古墳は平成20（2008）年度に調査された古墳です。横穴式石室の内部から37点もの様々な形をした鉄鏃（鉄製のやり）が出土しました。半数近くが長頸鏃と呼ばれる細長い鉄鏃で、比較的良好的出土状態でしたが何か所も折れているものがほとんどでした。

接合により鉄鏃23点がほぼ完形に復元され、出土した鉄器には脱塩処理やアクリル樹脂による含浸処理など、サビによる劣化を防ぐ科学的な処理を行いました。

発掘調査速報

亀居城関連遺跡（第2次）（大竹市小方）

調査期間 平成27年5月18日

～平成28年1月22日

亀居城関連遺跡は、近世初頭に福島正則によって築城された亀居城の南東にあたり、東は海、西は亀居城のある山に挟まれた西国街道に沿った近世後期の町屋跡です。町屋跡は、西国街道の山と海の両側に形成されており、昨年度は山側の町屋跡を調査し、大規模な火災を受けた近世の街並みが確認されています。今年度は昨年度の続き（山側）と海側の町屋跡などの調査を行っています。

現在までに、赤く焼けた土や炭化物の堆積層や建物の区画を示す石列、石垣、井戸、貯蔵穴と思われる穴等を確認しました。

遺跡の周辺は、第2次長州戦争（慶応2年1866年）の激戦地であったことから、赤く焼けた土や炭化物は当時の建物が被災した痕跡である可能性が考えられます。

また、町屋跡から西に離れたところで護岸状の石垣を確認しました。この石垣は山裾に近く、石材も町屋跡のものより大きく、石材に残っている矢穴（石を切り出すための工具跡）も大きく矢穴の間の距離が短いなど亀居城の石垣と大変よく似た特徴を持っています。このことから、この石垣は西国街道や町屋の形成以前の亀居城築城に伴うものである可能性も考えられます。

調査地点は、かつては海と接していたことから調査区の南側には雁木が付設しており、測量調査も行いました。

今後も発掘調査を進め、西国街道や町屋の内容とその変遷を明らかにしていきます。

（恵谷 泰典）



焼土・炭化物検出状況



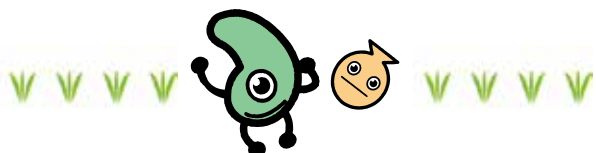
護岸状の石垣



矢穴のある石垣石材



雁木検出状況





地頭分溝渕遺跡（福山市瀬戸町）

調査期間 平成27年5月11日
～平成28年1月22日

地頭分溝渕遺跡は、福山市瀬戸町地頭分の東に面した丘陵緩斜面に立地しています。調査区を水田によってA～F区の7つに分け、北側のA区から調査を進めています。

A区では2つの遺構面で土坑・溝状遺構・ピット・性格不明遺構（S X 1）などを検出しました。遺物は、土師質土器を中心に陶磁器・須恵器・瓦などの破片や近現代の遺物も出土しており、遺構の多くは近世以降のものと考えられます。S X 1は柄鏡状の平面形で、円形部は直径1 m、深さ0.4 mです。北側の細長い部分は長さ0.9 mで、円形部との境に礫を積み、中央に一对のレンガを立てています。礫とレンガの間は炭化物が充満し、両側の土壁は赤く焼けていました。南側の突出部内には礫を積んだ上に軒丸瓦を架けており、煙道のような構造から窯的な性格の可能性があります。県内に類例がなく、レンガを使用した近現代の遺構として希少な資料となりそうです。

B区では土坑（S K 1～3）、溝状遺構、ピットなどを検出しました。

現在、全調査区で表土を除去し、D・E区を中心に住居状遺構や段状遺構、様々な土器などが見つかっています。調査前は中世を中心とする集落跡が想定されていましたが、弥生時代後期や古墳時代初期の甕、古墳時代中期の須恵器、平安時代の様相が窺える土師質土器など、時期幅のある土器類が出土しています。遺構の集中するD・E区を本格的に調査する中で、中世にとどまらず長きにわたり歴史を積み重ねてきた当地域の様相が明らかになると思われます。

（山澤 直樹）



北側から望む地頭分溝渕遺跡



A区の性格不明遺構（S X 1）



B区の土坑（S K 1）



B区の溝状遺構

天地遺跡(第2次調査)(福山市新市町)

調査期間 平成27年8月31日～
平成28年1月22日

福山市新市町の天地遺跡では、昨年度の調査区の北側の丘陵上で第2次調査が始まりました。

昨年 の 第1次調査では、古代の集落跡や道路状の遺構から石帯(古代の役人の腰帯の飾り)や円面硯(円形の硯)などが出土し注目されました。

今年 の 第2次調査では、表土剥ぎの途中に丘陵頂部で5か所の礫群が確認され、その中の1か所からは鉄剣が出土しました。その後の調査で丘陵一帯からは弥生時代後期の貯蔵穴や住居跡が発見され、丘陵の高い場所に弥生時代の集落があったことが判明しました。そのほか中世の土器や石塔類なども出土しています。今後弥生集落の詳細な内容を明らかにしていきます。(唐口勉三)



天地遺跡(2次調査)の調査状況



鉄剣出土状況

礫群の下から出土した鉄剣

学校との連携&研修

大学生インターンシップ

インターンシップ(就業体験)は5日間の日程(8月18日～25日)で、安田女子大学と広島修道大学の3年生4名が参加しました。

遺物の整理作業や保管・収蔵などの仕事に加え、行事の準備や当日の運営にかかわるなど、幅広い仕事内容を体験しました。学芸員資格の取得を目指す学生もあり、「直接文化財にふれて意欲が高まった」ようでした。



インターンシップ土器洗浄実習

中学生職場体験

広島市立似島中学校の2年生1名が、8月25日～27日に職場体験を行いました。土器の洗浄・注記・接合、古銭の洗浄・拓本、遺物の梱包・収納などに取り組みました。「将来考古学の仕事に就きたいので、色々な体験や参考になる話が聞けてよかった」と、貴重な体験となったようです。



細かい字を書く注記作業を体験

埋蔵文化財取り扱い技術研修会

県内市町の埋蔵文化財担当者を対象とし、研修会(県教育委員会委託事業)を実施しました。

6月24日～25日は「発掘調査基礎課程」の講義、7月29日～30日は大竹市の亀居城関連遺跡で「発掘調査実習課程」の実習を行いました。



土層断面の実測研修

考古学 アラカルト 45

鉄鐸(てったく)

鉄鐸は扇型の薄い鉄板を円錐形になるように丸めて作られており、古墳時代後期から平安時代にかけての墳墓や祭祀遺跡から出土しています。朝鮮半島の遺跡からも同様の鉄器が出土していることから、ルーツを大陸に求める考え方が一般的です。

中国横断自動車道尾道松江線の建設に伴う発掘調査では2例出土し、広島県では長畑山北第4号古墳(三次市)の石室内から出土しま

した。発掘調査時に確認された鉄鐸としては県内初の出土例で、長さ3.6センチ、開口部の径が1.5センチほどの小さなものです。

もう1例の鉄鐸は島根県の六重城南1号墳(雲南市)の周溝から出土しました。長さ5センチほどのこの鉄鐸には、円錐形の身部の内側に舌とよばれる鉄製の細い棒が付着した状態で出土しており、この棒を鉄鐸の内部につるし、振って音を鳴らして使っていたものと思われます。

鉄鐸の出土する古墳や祭祀遺跡からは、朝鮮半島との関わりを示す土器類や鍛冶道具・鉄滓などが出土することから、朝鮮半島から渡来した鍛冶に関わった人々が使った物と考えられています。

(村田智子)



長畑山北第4号古墳出土
鉄鐸

広島・島根交流事業

「尾道松江線発掘物語」展 が終了しました。

中国横断自動車道尾道松江線の発掘成果展を広島島根交流事業として、平成26年12月26日(金)の古代出雲歴史博物館でのオープンを皮切りに、出雲・三次・尾道の3会場で開催しました。

中国山地を介した瀬戸内海側と日本海側の交流の歴史を示す出土品を一堂に展示したこの展示会は、尾道会場をもって閉会しました。これからも機会があれば、他県との交流事業を企画したいと思います。



出雲会場

古代出雲歴史博物館

平成26年12月26日～

平成27年2月22日

来館者数：16,522人



三次会場

広島県立歴史民俗資料館

平成27年4月17日～6月14日

来館者数：5,805人



尾道会場

おのみち歴史博物館

平成27年7月18日(土)～9月6日

来館者数：2,655人

Rail and Bus & てくてくツアー

日頃一人では訪れることが難しい考古学スポットをローカル列車や乗り合いバスで訪ね、広島県の歴史について学んでいただく体験型のツアーです。昨年度は三次市布野・蒲刈島・大竹・本郷の遺跡を探訪しました。今年度は現地の遺跡に詳しい方々のご協力も得て、新たに4つのツアーを企画しています。是非ご参加ください。

第1回 三次の古墳群てくてくツアー & 尾道松江線発掘成果展 5月23日(土)

総勢17名が広島バスセンターと三次駅に集合し、三次駅からローカルバスでみよし風土記の丘へ向かいました。風土記の丘では今年3月の尾道松江線「中国やまなみ街道」の全線開通に伴い、「尾道松江線発掘成果展」が開催されており、学芸員の解説を聞きながらの見学となりました。その後、風土記の丘内の七ツ塚・浄楽寺古墳群を縦断、高杉城跡の知波夜比古神社を経て神杉駅まで約1時間半の道のりを三次の歴史と自然を体感しながら歩きました。神杉駅からは1両編成のレトロなローカル列車に乗り、旅の余韻に浸りながら三次駅で解散しました。



尾道松江線発掘成果展

浄楽寺第12号古墳



第2回 三ツ城古墳&安芸国分寺 歴史公園と酒蔵通り 6月27日(土)

総勢27名が広島駅と西条駅に集合し、西条駅から徒歩で安芸国分寺歴史公園に向かいました。安芸国分寺歴史公園では、東広島市教育委員会の担当者から安芸国分寺の歴史についての話を伺った後、酒蔵通りや西条駅周辺に広がる四日市遺跡についての説明も聞くことができました。午後は酒蔵通りの散策を楽しんだ後、バスで三ツ城古墳へ移動しました。古墳では県内最大規模を誇る三ツ城古墳を初めて見る参加者から感嘆の声があがりました。また市教委の担当者の解説を聞きながら実際に古墳の上を歩くことで、古墳の大きさや築かれた当時の三ツ城古墳の姿を実感できました。その後はまたバスで西条駅にもどり、無事完了となりました。



安芸国分寺仁王門



三ツ城古墳前方部より

これからの予定

回	実施日	遺跡探訪の内容
第3回	10月24日(土)	倉橋島の鹿老渡の古墳と長門の造船歴史館& 〆 (呉市倉橋町)
第4回	11月14日(土)	安芸高田市歴史民俗博物館と甲立古墳 (安芸高田市)

※詳細はHPに掲載します

南観音考古学教室Ⅲ

見る・聞く・やってみるの考古学

南観音公民館との共催事業として、「見る・聞く・やってみる」をテーマに始まった南観音考古学教室も今年で3年目を迎えました。この教室は地域の方々に、考古学の体験教室や身近な遺跡の探訪をとおして郷土の歴史や文化への理解を深めてもらおうというものです。

第1回 7月25日(土)

きらきら教室一勾玉づくりー

南観音公民館で開催された勾玉づくりには、4歳から60代まで幅広い年齢層の参加がありました。四角い滑石からやすりを使ってオタマジャクシのような勾玉の形を削りだすのには根気が必要ですが、小さいお子さんも大人の助けを借りながら全員完成することができました。完成した勾玉一つ一つに個性があり、“My 勾玉”を首にかけて、記念撮影をする姿があちらこちらで見られました。



第2回 8月3日(水)

マル秘お仕事拝見・体験 ー県埋蔵文化財調査室の特別公開ー

当調査室の施設見学の後、新たな試みとして和同開珎の鑄造体験を体験学習に取り入れしました。実際に金属を溶かして鑄型に流し込み、鑄型から和同開珎の枝銭を外すときには歓声が起こりました。和同開珎は枝銭から一つ一つ切り離してきれいに磨き、記念品として持ち帰りました。暑さのせいか参加者は少なかったですが、鑄造体験は今後イベントの目玉として定着しそうです。



第3回 8月22日(土)

うまうま体験ー古代のごはん炊き

ごはん炊きの歴史についてのお話を聞いた後、当調査室の中庭で実際に土器（複製品）を使ってごはんを炊いてみました。石で組んだ炉に枯草や薪をくべ、火加減を調節しながらごはんが炊き上がるのを待ちます。土器の蓋から湯気が上がらなくなれば出来上がりです。蒸らした後のごはんはほんのりと草の香りがして、土器炊きのごはんの味にみなさん満足されたようです。



第4回 9月19日(土)

てくてく教室 ー広島市内の江戸時代の街道を歩くー

広島駅を出発し、ボランティアガイドの方の案内で江戸時代の西国街道周辺の東照宮・國前寺・才蔵寺を見学しました。途中二葉の里にある広島市文化財団文化財課を訪問し、広島市内の遺跡から出土した遺物の収蔵品を見ることができました。9月後半にしては暑い日でしたが、広島市の歴史と文化財に触れることができ、実りの多い一日でした。



文化財課にて

才蔵寺にて
可児才蔵の像の前で

聴講料無料
(各回申込不要)

—発掘から推理する—

を開催します。

会場 広島県立総合体育館 大・中会議室

(広島市中区基町4番1号 Tel: 082-228-1111)

定員 100名

時間 各回とも13時30分～15時30分(開場は13時～16時)

回	期 日	講 座 名 ・ 講 師	講座の概要
1	平成27年 12月5日(土)	安芸の渡来系寺院の謎 —明官地廃寺(安芸高田市)の発掘から— 伊藤 実 (当調査室)	明官地遺跡の発掘調査の成果から、古代安芸国と倭漢氏の関わりについて考えます。
2	12月12日(土)	山間の前期古墳の謎 —甲立古墳(安芸高田市)の発掘から— 沖田 健太郎 (公財) 安芸高田市地域振興事業団	平成20年に発見された甲立古墳の調査成果から、安芸高田の前期古墳の謎に迫ります。
3	平成28年 1月16日(土)	最後の前方後円墳の謎 —二子塚古墳(福山市)の発掘から— 内田 実 (福山市教育委員会)	史跡二子塚古墳の調査から備後地方の古墳時代の歴史を紐解きます。
4	2月20日(土)	中世の信仰と石造物の謎 —大柳遺跡(世羅町)の発掘から— 梅本 健治 (当調査室)	大柳遺跡の発掘調査成果から、中世の人々の信仰のあり方に迫ります。
5	3月5日(土)	古墳から出土した香炉の謎 —門田敦盛古墳群(三次市)の発掘から— 濱岡 大輔 (NPO 広島文化財センター)	門田敦盛第4号古墳から出土した全国的にも珍しい柄香炉形土器の謎解きに挑みます。
6	3月19日(土)	幕末の動乱と瀬戸内の町屋跡の謎 —亀居城関連遺跡(大竹市)の発掘から— 渡邊 昭人 (当調査室)	亀居城関連遺跡で出土した火災跡のある幕末の町屋跡の調査成果を検討します。

あとがき

- ・今年春から夏にかけて例年になく雨の日が多く、福山方面の発掘現場では排水に苦労したようです。調査はこれから佳境に入ります。発掘日和が続くことを願っています。
- ・調査室では平成27年度「ひろしまの遺跡を語る」を来年1月に予定しております。詳しくはホームページ・チラシでご案内します。乞うご期待!!

(村田 智子)

(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報 ひろしまの遺跡 第114号

発行日 平成27(2015)年9月30日
編集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町四丁目8番49号
TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951
ホームページ <http://www.harc.or.jp>
E-mail maibun@harc.or.jp
発行 公益財団法人 広島県教育事業団
印刷 株式会社 エル・コ